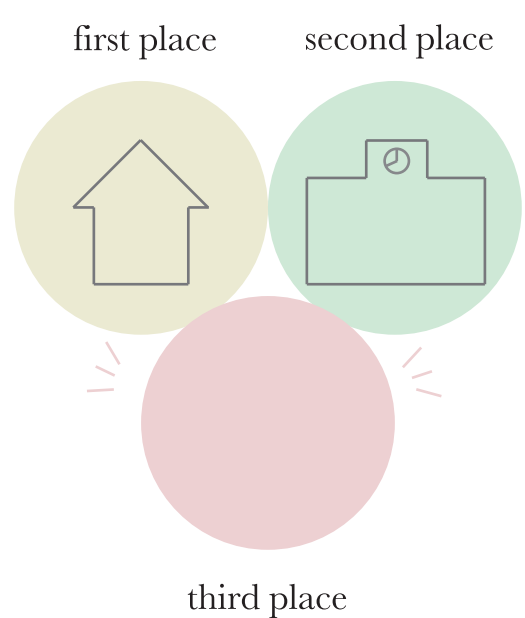




いろいろ

whereabouts. - 居場所について -



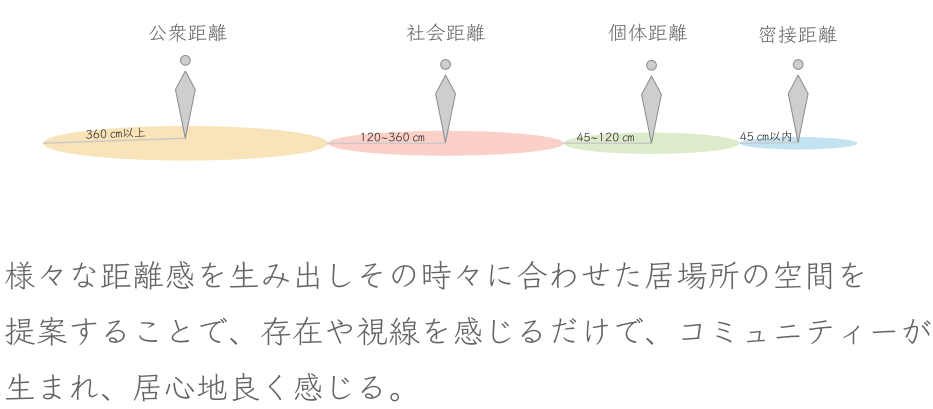
あなたにとっての『居場所』とは何ですか？

第一に思い浮かぶ家、第二に思い浮かぶ職場や学校、第三の居場所はどこにあるでしょうか。私にとっての第三の居場所を聞かれても答えられなかった。自分らしくいられる空間が身の回りに多くはないことに気づいた。そこで私は新たな居場所の提案をしたいと考えた。

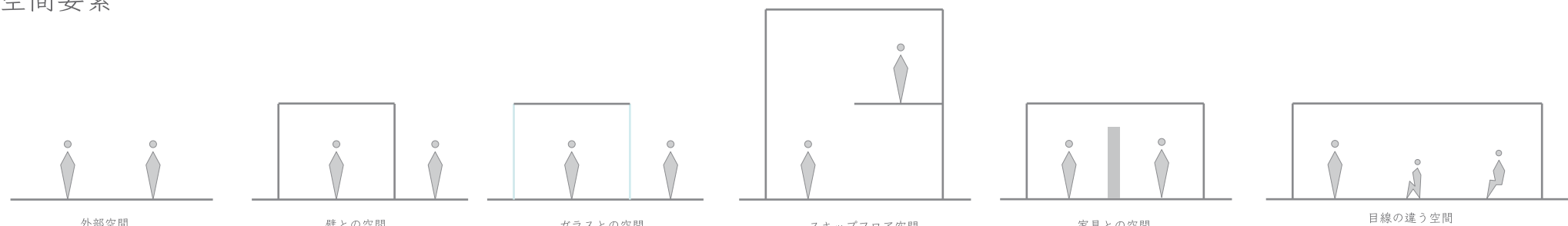


whereabouts. - 居場所のアイデア -

● 人との距離感

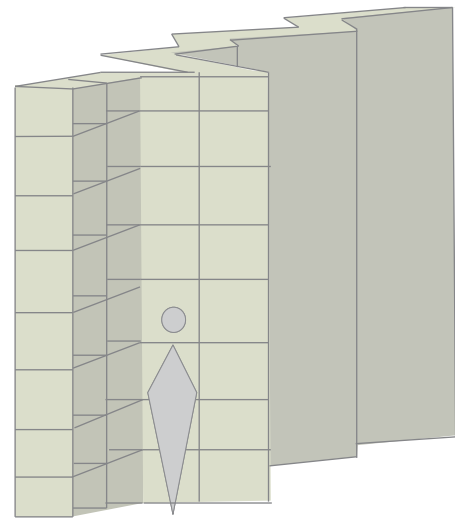


● 空間要素

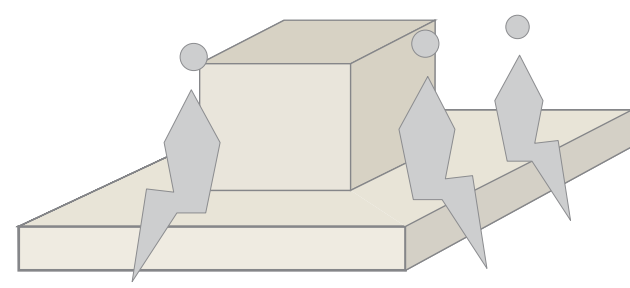


様々な空間要素をつながけながら構成することで、自分の好みやその日の気分で自分の居場所を選択することができる。

● 家具を用いた居場所のアイデア



本棚から本を取ると反対側の様子が見える本棚



人の視線は交わらないことで落ち着く椅子

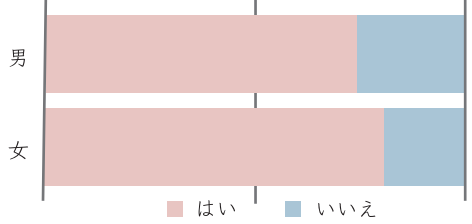


南側立面図 1/500

whereabouts. - 居場所の現状と課題 -

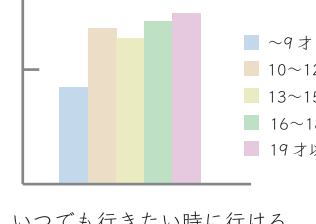
● 子どもの居場所の現状

あなたは家や学校以外に、「ここに居たい」と感じる居場所がほしいですか。



男女にかかわらず、居場所のニーズがある。

どのような場所であれば行ってみたいと思うか。



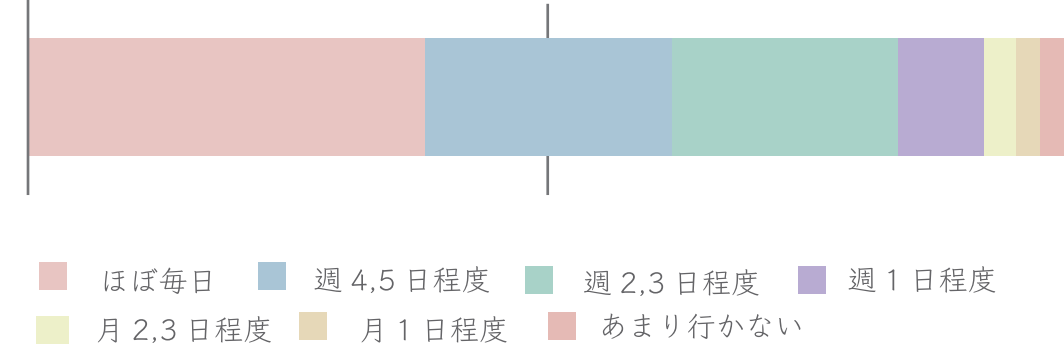
家から近いところに自由に行くことのできる場所は子どもにとって必要である。

● 子どもの居場所の課題

1. 居場所がほしいと感じる子どもが多い。
2. 居場所があるにもかかわらず、自由に行くことのできる場所は子どもにとって必要である。

● 高齢者の居場所の現状

一ヶ月の間に外出する頻度



ほとんどの高齢者が週の半分以上外出することがわかる。

居場所として利用されている場所

理由	類型	(A)生活必需行動のついでに立ち寄る場所	(B)生活必需行動以外に意図を持って行く場所	(C)特に用事がなくてもふらりと行きたくなる場所
①楽しめる	4.本屋・書店 8.趣味・娯楽施設	4.屋内スポーツ施設 6.農作業・園芸・釣り 7.映画館・劇場・美術館 9.図書館・活動施設	2.駅など交通 3.大型複合施設 4.フードコート 5.ファストフード等 7.図書館・文化施設	
②会いたい人がいる	9.親族・知人宅	2.親族・知人宅	10.親族・知人宅	
③心地よい	3.公園・緑地・散歩道 5.喫茶軽食店	8.寺社などの宗教施設	1.公園・緑地 6.カフェ・喫茶店	

そこにいくと楽しむことができ、ふらっと立ち寄れる、何かのついでに寄れる場所が好まれることがわかった。

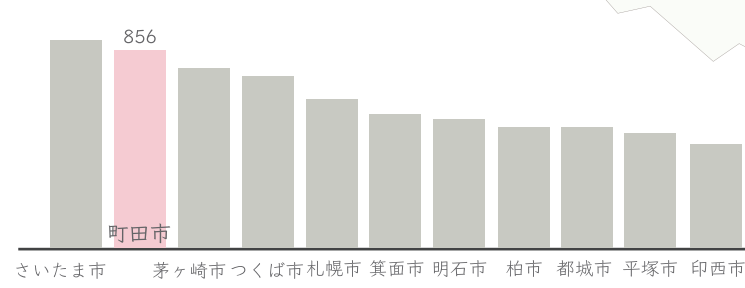
● 高齢者の居場所の課題

1. 居場所として利用されている場所が多い。体が不自由になっても利用しやすく一つの施設でいくつか居場所として利用できる場所は少ないのではないかと考えた。

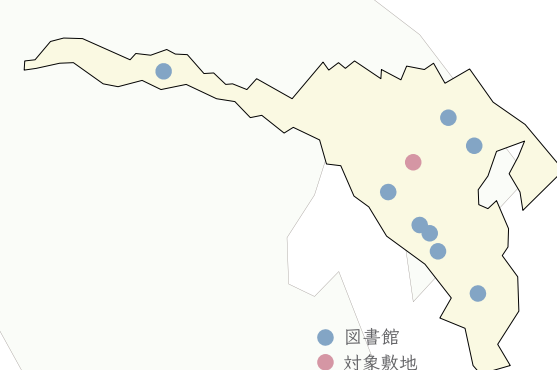
location. - 町田市の問題と課題 -

東京都の中で三番目に人口が多く、現在は約43万人と、東京のベッドタウンとしても知られる。都心にも行きやすい小田急線は新宿について二番目に利用客が多い。そして農業が盛んで、自然や緑が多いことも魅力的なまちである。

● 年少人口の転入率が全国二位の子育てのしやすいまち

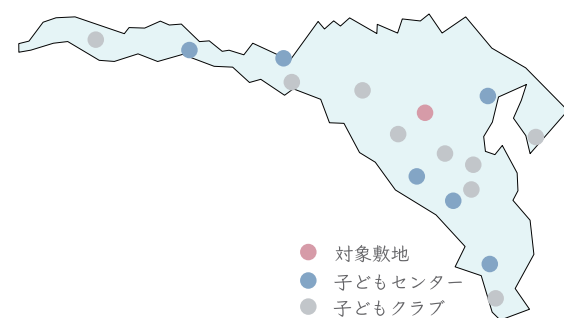


● 都市的なにぎわいのあるまち



図書館は分館を含め市内に8つある。しかし全て人口が集中しているところや駅周辺にしかない。

子育て支援施設が少なく、子どもにとっての放課後のスペースや子育てをする親の支援が少ないのではないかと考えた。



子どもにとっての機能と図書館のように気軽に足を運ぶことのできる施設があることで、町田市全体がより都市的なにぎわいが増え、このまちの魅力が一つ増えるのではないかと考えた。

location. - 設定敷地 -



東京都町田市山崎町

現：東京都住宅供給公社都営山崎町アパート1-2号棟
用途地域：準工業地域 築年数：44年 敷地面積：3365㎡

● 供給公社とは？

住宅に困っている収入の少ない方のためのセーフティネットとして、低廉な家賃で賃貸する公共住宅

● 周辺環境

敷地の北側、南側に鶴見川が流れており、南側はサイクリングを楽しむ人、ランニングをする人など体を動かす人が多い。日当たり、風の通りがよく気持ちの良い敷地である。しかし建物の老朽化や、町の人口は高齢者が増えていること、空き家が年々増えていること、そして交通の便が悪く、バスを利用しなくてはならない。

concept. - 建物のアイデア -

今の日常に新たな色をプラスする
色が人のつながりを生み、まちのにぎわいを起こす
無職ではなく多色でみんなの居場所で私の居場所
自然ここに集い、いろんな色で溢れる。
そんなふらっと立ち寄れる新たな色を提案します。

contents. - 施設内容 -

敷地周辺に足りない機能を補い、新たなまちのコミュニティをつくる。地域の子どもたちから高齢者、大人から子どもまでどんな人にもここが居場所だと感じられる図書館、交流施設、子どもセンターの主な三つの機能を持たせた施設を提案する。

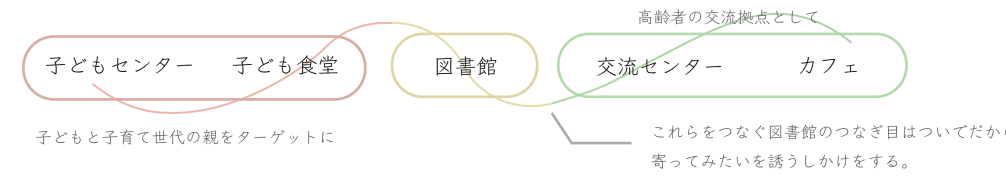
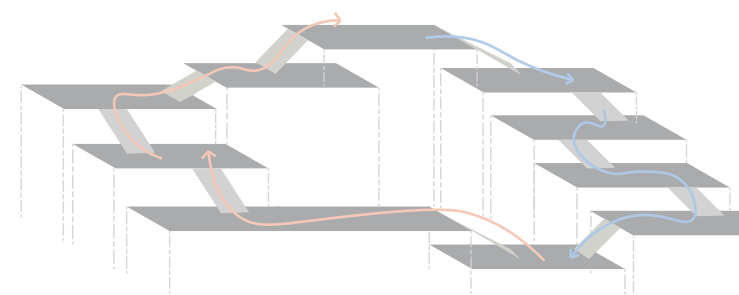


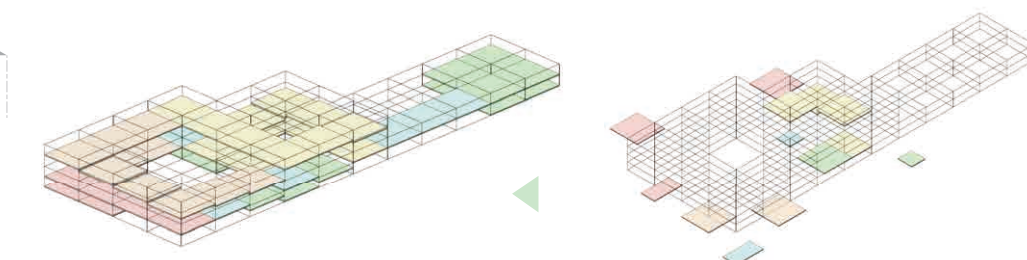
diagram. - 建物のアイデア -

flow line. - 動線計画 -

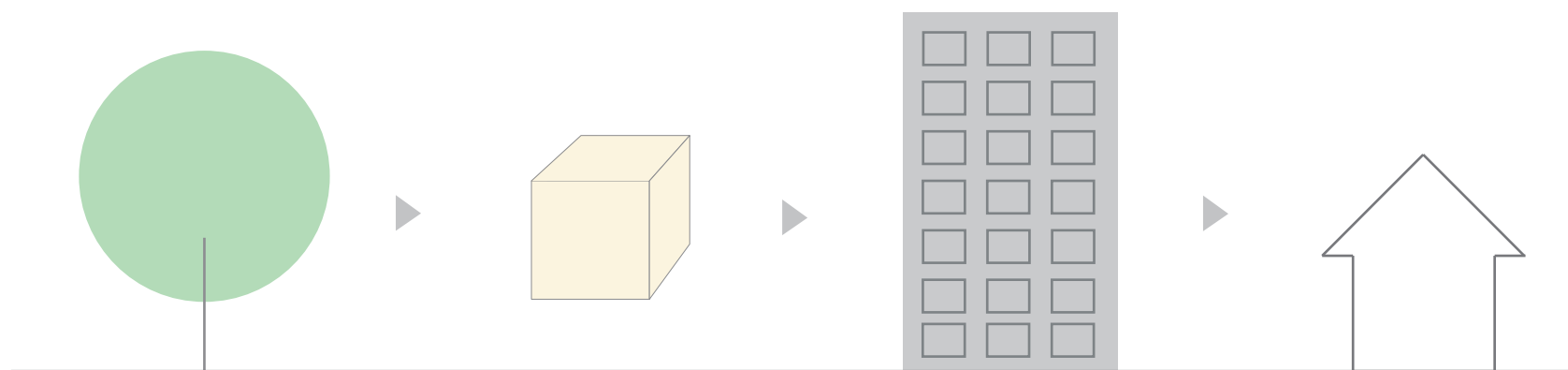


上りと下りで別の道を通り、一本の道を回るような動線。自分の居心地のよさを感じられる空間を迷路のように探検しながら見つける動線となっている。

一つのフレームを組む
同じフレームを組み合わせて、ジャングルジムのような形を作る。



一つの決まったフレームの中に、様々な床を入れることで構成する。
そこに3パターンの床を高さを変えたり、向きを変えたりしながら入れていく。



今回この施設は木造のラーメン構造で設計した。
まず木は空気中の二酸化炭素を吸収し酸素を放出し成長をしている。長い間木の形のまま利用することで木の循環システムが成立します。大きな建築で大きな木材を利用し、分割して小さな家の木材として利用することで木造建築のサイクルを作り、地球にやさしい建築を目指します。